



グランシップマガジン

[ジー] vol. 44

GRANSHIP magazine

AUTUMN 2009



series わが羅針 第44回

北村 英治

SPECIAL 2

独歩の傑物

北大路魯山人

REPORT

平成21年度静岡県公立文化施設協議会自主事業研究会 基調講演

公立とは? 文化施設とは?

園山土筆と「あしぶえ」、

その活動からの提言。

次世代を創る顔

アニメ・クリエイター 八木 智子

しずおかアーティスト・リレー ②

洋画家 松崎 九鬼

村松友視の文化漫遊②

SPECIAL 1

グランシップ開館10周年記念事業

オペラ

「椿姫」が待ちどおしい!
4つの理由。

ART:MICHIAKI MOCHIZUKI

10th Anniversary
上質を、身近に。

GRANSHIP
静岡県コンベンションアークセンター



『Shift』
4分ほどの短編作品。音楽は父が担当。各賞にも輝いた。

アニメ・クリエイター 八木 智子

今後はストーリー性のあるものを。
多くの人にほのぼのの見てもらえたら。



蝶が魚になり、鳥になり、それらが触れるたびに怪しげな雨雲は風船に、奇異な海中生物は珊瑚へと姿を変えていく。「画用紙に鉛筆で描いたそのままを出したい」とこだわりの約4分の作品に手描きの原画2千枚。「辛かった分の達成感」に受賞のご褒美もついた。ワンカットで映し出す変化の連なりには、回り灯籠を見るような面白さ、優しさもある。

植物が好き。さらに「モノが密集している様子やデザインの集まりがすごく気になる」という彼女。今後は「自然を突き詰めて、もっと細かく描けるようになりたい。今、修行中です」と語る。
「小さくてもたくさん、それもストーリー性のあるものを作ってみたい。そして、いろんな人に見てもらって、ほのぼのしてもらいたいと思います」

やぎ ともこ

2008年、東京工芸大学アニメーション学科卒業。卒業制作作品『Shift』で昨春、第6回インディーズアニメフェスタ「渡辺純央賞」、また、昨秋には第4回吉祥寺アニメーション映画祭「スタジオディーン賞」を受賞。第12回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門（短編）審査委員会推薦作品に選ばれる。現在、制作会社の現場にてアニメーションなどを勉強中である。1985年静岡県榛原町（現牧之原市）生まれ。

Contents

次代を創る顔④④ 2
アニメ・クリエイター 八木 智子

しずおかアーティスト・リレー②⑥ 3
洋画家 松崎 九鬼

SPECIAL-1 特集 4
グランシップ開館10周年記念事業

オペラ

「椿姫」が待ちどおしい!
4つの理由。

coming soon I 10

2009年しずおか連詩の会

series わが羅針 第44回 11

北村 英治

「シャドウ・クラリネットの頃。」

SPECIAL-2 小特集 16

独歩の傑物

北大路魯山人

REPORT 20

平成21年度静岡県公立文化施設協議会自主事業研究会 基調講演

公立とは? 文化施設とは?

園山土筆と「あしぶえ」、その活動からの提言。

essay 村松友視の文化漫遊②⑨ 22

「わが心の劇団ポートシミズ」 画/風鈴丸

information a-go-go 24~30

●公演情報

●Just Finished! / 「大植英次」 ●プレゼント

●友の会のご案内 ●SPAC NEWS ●TOPICS

●TRY GRANSHIP

●SUPPORTER's VIEW READER's VIEW Editor's room



(2009年制作)

表紙アート●望月 通陽 作品タイトル:『行客案内』

小さなあかりがこの手にあれば、私はどうにか道を行けるはず。足元を照らしながら、心を励ましながら。それからそのひとつのあかりを誰かが慕って、いくつもあかりが集まれば……さてさて、あんまり道が明るくなると、何だかやっぱりつまらなく、私は暗がりについてそれたがののだ。

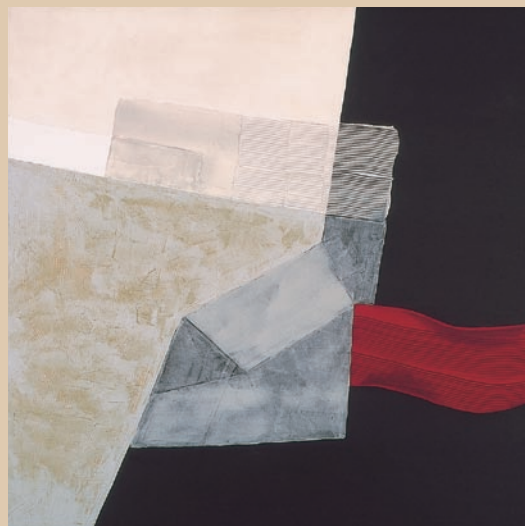
しずおか

26

アーティスト・リレー

洋画家
松崎 九鬼

次回
マクラメ作家
鈴木 真弓さん



「View point.jp」 素材/アクリル S100号

私の絵のコンセプトは、

この何十年もの制作活動をしてきた中で、
少しずつ確実に自分の内に生まれてきたと感じられること。

それは日本人の血(DNA)の中に組み込まれている

美意識、美的感覚。

そして、その記憶を色、形に表現することです。

日本文化の中に流れている洗練された

モダンでシンプルな美的感覚ってすごいな…と

鳥肌のたつ思いです。

マツザキ クキ ●武蔵野美術大学短期大学部油絵科卒業。個展:由美画廊(浜松)、フェルケール博物館(静岡)、渋谷、銀座 他。浜松、静岡、広島、仙台、キューバなどグループ展に多数参加。受賞歴:自由美術協会展佳作賞他。県美術家連盟理事、自由美術協会会員。現在、浜松在住。

オペラ
「椿姫」

～全3幕～
〈日本語字幕付原語上演〉

グランシップ開館10周年記念事業

12/11(金) 18:30開演(18:00開場)

12/13(日) 14:00開演(13:30開場)

グランシップ中ホール・大地

全席指定/S席 10,000円 A席 8,000円 学生席 5,000円

オペラ
「椿姫」が待ちどおしい！

4つの理由。



お初

O H A T S U

がいつぱい！

※1 思えばこれがグランシップとSPACの初コラボ。

※2 しかも会場となる中ホール・大地と

その裏手にあたる静岡芸術劇場とを隔てる扉が

開館十年目にして初めて開く、という趣向。

数十メートルにも及ぶその奥行を活かして

果たしてどんな作品が生まれるのか。

壁の歴史的崩壊という、どこかの国の話ではないが、

「何か凄いことが始まる」

その予感はずっとアタリ！だ。

※1 (財)静岡県文化財団

※2 (財)静岡県舞台芸術センター

ニュースな顔ぶれ！ クリエーター

その演出家は、実は音楽についてとても造詣が深い。

それだけに本作への思い入れも強いようだ。「聴かせ」て、なおかつ「見せる」。

そのこだわりは、ご覧の顔ぶれにも表れている。イギリスのケンブリッジ大学刊行の

〈20世紀を主導した演出家・劇作家21人〉においてアジアでただ一人選ばれた巨匠と、次代を継ぐ気鋭二人を揃えた異色のタッグは、それだけでもうニュースだと思う。



©Yuki Hasuimoto



指揮 飯森 範親

「ヴェルディの原作への深い思い入れと、そこから生まれてくる彼独自の音楽的な世界は特筆もの」と語る氏。演出家のこだわりと、彼が思い描く音楽世界とのコラボ。実力、人気ともトップクラスのマエストロがついに本作でグランシップに登場する。

Conductor/Norichika Iimori

桐朋学園大学卒。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、国内外で活躍。1996年の東京交響楽団ヨーロッパツアーで、一躍注目され、絶賛を浴びた。現在、山形交響楽団音楽監督、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。63年神奈川県生まれ。

振付 金森 穰

革新的で創造的。今、日本で最も注目されているダンサーであり、振付家といっている。しかも自らが芸術監督を務める日本初の公立カンパニー「Noism 1」を率いての参加である。スズキオペラに彼のダンス美学が注入されるとなれば、それだけでもう鳥肌モノ。

Choreographer/Jo Kanamori
舞踊家・演出振付家。モーリス・ベジャールらに師事。ネザーランド・ダンス・シアターII、リヨン・オペラ座バレエ、ヨーテポリ・バレエを経て帰国。革新的なカンパニー活動を展開。03年朝日舞台芸術賞、平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞ほか受賞多数。リョーとびあ新潟市民芸術文化会館の舞踊部門芸術監督。劇場専属舞踊芸術集団Noismを率いる。74年生まれ。



演出 鈴木 忠志

氏は、別作品で「椿姫」の曲を使うほど好きでありながら、作品として取り組むのは初めてなのだそうだが、そこは世界のスズキ。氏の構想は、本家とはちょっと離れる。舞台は社交界ではなく、暗黒街のクラブ。若い作曲家がマフィアに身を置く美しい女性に恋をして、店の一角で恋物語を音楽として書き綴るというもの。オペラには縁がない、社交界もよくわからないという人にもきっと楽しめる。そこも本作のポイントの一つ。

Director/Tadashi Suzuki

演出家。1966年に別役実らとともにSCOT（旧早稲田小劇場）を旗揚げ。76年に富山県利賀村に本拠地を移した後、82年より世界演劇祭「利賀フェスティバル」を毎年開催。また、俳優訓練法（スズキ・メソッド）の考案者としても知られる。岩波ホール芸術監督、水戸芸術館芸術総監督を経て、95年より2007年3月まで静岡県舞台芸術センター（SPAC）の芸術総監督を務める。39年静岡県静岡市（旧清水市）生まれ。

しかも、このキャスト！

「本家とは設定を変えているけれど、音楽は『椿姫』をしっかりと歌ってもらいます。でも、歌だけを聴かせるならCDでもいい。オペラとして見せる以上、登場人物は見た目にも魅力的でなければね」そんな演出家の言葉を裏づけるキャストが実現した。ヴィオレッタ役と世界的ディーヴァを据え、アルフレード役とジェルモンもイタリアを本拠とする実力派。オケも、合唱も、ダンスも、無論ぬかりナシ！

ヴィオレッタ (ソプラノ)

中丸 三千繪

20世紀イタリア黄金時代を代表するマエストロ、歌手は例外なく彼女の「椿姫」を聴いているという。そんな世界的プリマによると、いわゆるヴェルディ節、椿姫節のようなものがあるのだとか。イタリア・オペラを深く知る彼女のヴィオレッタをお楽しみに。

Soprano/Michie Nakamaru

桐朋学園大学声楽科卒。90年に声楽コンクールの最高峰「マリア・カラス・コンクール」でイタリア人以外で初めて優勝。以来、プリマドンナとして世界中の舞台で活躍。ミラノ・スカラ座をはじめ、数々の舞台で成功をおさめ、多くのCDも発表してきた。06年、イタリア文化への貢献で「イタリア連帯の星勲章」を受勲。



アルフレード (テノール)

佐野 成宏

バルマの音楽院に留学していた縁もあり、バルマ出身のヴェルディに関しては、自分は職人でありたい、ヴェルディのアリアを歌うのであれば絶対に負けないものを身につけたいと語っていた氏。その「光り輝く声」にまた会える。



撮影：阿部俊哉

ジェルモン (バリトン)

堀内 康雄

1997年、イタリアでの活躍を手土産に凱旋を果たす形となった日本デビューは、藤原歌劇団におけるまさにこの「椿姫」ジェルモン役だった。絶賛を博し、以来、はまり役ともいわれる。包容力のある安定したバリトンは、抜群の存在感。



Baritone/Yasuo Horiuchi

慶應大学法学部卒業後、91年に渡伊。93年トゥールーズ国際コンクールで日本人男性として33年ぶりに優勝。ヴェネツィア・フェニーチェ座「ラ・ボエーム」でデビュー。以後、ローマ歌劇場をはじめ、数々の歌劇場でのオペラや、スペイン放送交響楽団等の演奏会に出演。日本では97年藤原歌劇団「椿姫」でデビュー。五島記念文化賞オペラ新人賞、グロー・オペラ賞受賞。藤原歌劇団団員。

合唱
藤原歌劇団合唱部

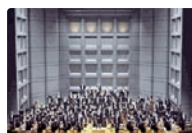
ダンス
Noism 1

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館が、舞踊部門芸術監督に金森穰を迎えたことから、劇場専属のダンスカンパニーとして04年設立。日本初、ヨーロッパスタイルのプロフェッショナル・ダンス・カンパニーとして日本のコンテンポラリー・ダンス界をリードしている。



管弦楽
東京フィルハーモニー交響楽団

1911年名古屋に生まれた日本最古の伝統を誇るオーケストラ。現在は、新国立劇場のレギュラーオーケストラとしても活躍。伝統に培われた音楽性に磨きをかけ、「オペラ」と「シンフォニー」を両輪とした活動を展開している。



アンニーナ
家田 紀子



グランヴィル
三浦 克次



ドブニー
東原 貞彦



ドッフォー
ジョン・ハオ



ガストン
山村 尚正



フローラ
向野 由美子



原作はデュマの「椿の花の夫人」。

ジュゼッペ・ヴェルディが1853年に発表し、私たちが「椿姫」と呼んでいるオペラの原題は、道にはずれた女、墮落した女を意味する「La Traviata」（ラ・トラヴィータ）。しかし、日本ではその原題は受け入れられ難いとみえて、今なお原作小説「La Dame aux Camélias」（＝椿の花の夫人）の意訳「椿姫」の名で上演されることのほうが多い。

アレクサンドル・デュマ・フィスによる原作の中には、ヒロインが通う劇場の棧敷に必ず椿の花束が置かれ、月の25日は白い椿、残りの5日間は赤い椿に変わるシーンが描かれている。が、残念ながらそのシーンはオペラにはない。椿に関していえば、第1幕でヴィオレッタがアルフレードに椿の花を渡すシーンがあるだけだ。そもそも脚本家フランチェスコ・マリア・ピアヴェは、内容も人物も原作とは変えていて、ヒロインの名をスミレの意の「ヴィオレッタ」にしたのも彼。最近では、原題を掲げる公演も多くなったが、椿の花の名がスミレになってもやはり椿姫は椿姫というファンも少なくない。

「椿姫」のあらすじ！

念のため、オペラ「椿姫」のあらすじ。そして、聴きどころを。

今回、グラン

シップでおとどけする「椿姫」は、

原作とは仕立てを変えているが、音楽は本家のまま。そこで簡単なあらすじを付しておく。ちなみに当日は原語で歌われるが、日本語の字幕も用意。ご安心を。

【第1幕】

舞台は19世紀半ばのパリ。前奏曲■宴の人氣をさらう高級娼婦ヴィオレッタ。「■乾杯の歌」を歌う青年アルフレードは二人きりの時、彼女に愛を告白。その純粋な愛に戸惑うヴィオレッタ。■そはかの人か〜花から花へ

【第2幕】

第1場／パリの郊外、穏やかに暮らす二人。■燃える心をアルフレードの留守中、彼の父ジェルモンは娘の縁談に障るため、息子と別れるよう迫り、ヴィオレッタは真実の愛を訴える。■二重唱が、別れを決意。彼女に裏切りを感じ激怒するアルフレードに、故郷へ帰ろうとだめる父。■プロヴァンスの海と陸 第2場／社交界に戻り、かつてのバトンである男爵と現れた彼女は、追ってきたアルフレードに男爵を愛していると告げる。逆上した彼は彼女を侮辱して悲しませる。

【第3幕】

数か月後、病床のヴィオレッタ。死を目の前にし、彼女は幸せな日々を思う。■さらば、過ぎ去りし日々そこへ父から全てを知らされたアルフレードが駆け込んでくる。そして、彼女に許しを請い、二人は再び共に暮らすことを誓う。■パリを離れてしかし、時すでに遅し。彼女は息を引き取る。

世界三大オペラの一つに挙げられる「椿姫」。私たちはとくにこの作品が好きだ。「日本人は悲運に沈んだ人に心を寄せるところがあるからね」演出家が語る通りの切ないストーリー展開。しかもオペラの華ともいえるアリアの素晴らしさ。見どころ、聴きどころに富んだ傑作は初めてでも、何度味わってもいいもの。そのうえ今回は、最高のスタッフ、キャストを得てのまったく新しい「椿姫」であるということもお忘れなく。

前奏曲

哀愁を帯びた弦楽。鈴木氏はこの前奏曲から好きだという。

乾杯の歌／アルフレード、ヴィオレッタ

満場の合唱で盛り上がるこの曲は、本作の中でも最も有名な一曲。

そはかの人か〜花から花へ／ヴィオレッタ

揺れる心を歌い分ける美しいソプラノ、華やかなトロラトゥーラが聴きどころ。

燃える心を／アルフレード

ヴィオレッタとの幸せな暮らしを歌い語る。

二重唱／ヴィオレッタとジェルモン

このオペラの大きな聴きどころの一つ。美しい旋律が続く。

プロヴァンスの海と陸／ジェルモン

息子を慰め、故郷に帰ろうと心情を訴える場面。バリトンのオペラアリアの名曲。

さらば、過ぎ去りし日々／ヴィオレッタ

死の床で神に許しを乞いながら歌い上げる。

パリを離れて／ヴィオレッタとアルフレード

再会して愛を確かめあう二重唱。

「ヴェルディは、ヴィオレッタの心臓の鼓動、心拍数まで楽譜に書いているんですよ。」



Michie Nakamaru

なっちゃって。でも、驚いたことに何のトラブルもなかった。

中丸…そう。あつという間に終わってしまつて。

飯森…こう歌いたいということが全部わかる。だから本番もよかったですよね。

中丸…同じ指揮者で何十回とやつても一度も合わないこともあるのに、不思議なくらいで。

飯森…今度の『椿姫』は、あれ

ナ、プリモテノールとはいっても、演出と指揮があつて初めて私たちは一つの駒として動ける。だから、今回のお話では、演出家が目指すものを自分はどこまでできるかと。そこが楽しみなんです。

飯森…よくわかります。以前、指揮者の演出が流行りましたよね。でも、演出家には演出家のポリシーがあつて、指揮者には指揮者の、楽譜だけで考えた世界があつて。それらが舞台の上で結びついて、意外なものが生まれると思うんです。そこを指揮者が仕切つてしまふとつまらない。演出家にいろんな可能性をもらうことによって新しい世界が拓ける。音楽的な深さも広がりも増す。そういう意味でも今回の鈴木さんのアプローチは楽しみですよ。

中丸…鈴木さんはたぶんデュマ、フィスの原作からお入りになっているんじゃないかしら。あの原作を知っているのと知らないのとではとても違うと思うんです。ヴェルディの作品だけだと、彼女が高級娼婦であるという表面的なことだけが浮き彫りにされますが、本当はその向こう側にある内面と、アルフレードが純粋に一人の女性を愛しきつたというところ、そのあたりをどう映し出すか。

飯森…そこをご存知の鈴木さん

飯森…日頃親しくさせていた

だいてますが、初共演はごく最近、去年の9月だったんですね。それまで三千繪さんは日本にいらつしやなくて、僕もドイツが長かったから。

中丸…なぜかいつもスケジュールが合わなくてね。

飯森…それが去年、大阪のセンチュリー交響楽団で実現して。でも、お互い忙しくてね。普通、リハーサル前にピアノで合わせた

ソプラノ歌手

中丸三千繪

前に口頭でやりとりして、鼻歌的に歌っていたくらいで、すぐにオーケストラとの練習に、

んなら、当然アプローチは変わりますよね。

中丸..しかも指揮者と歌手でこれだけ変わる作品もないでしょう。たとえば16分音符と8分音符のつながりにもテンポ感や意味がありますけど、この作品はそこを自由に操作できる。だから、トスカニーニとクライバーとではテンポ感が違うんですね。
飯森..まったく違いますね。僕は両方とも好きですけど。
中丸..それにヴェルディは、楽譜にヴィオレッタの心臓の鼓動まで書いているんですよ。
飯森..なるほどね。

指揮者

飯森 範親

「言いたいことが場面ごとに表現できている。

彼の音楽は簡潔明瞭。そこが魅力ですね。」



Norichika Jimori

中丸..モーツァルトやプッチーニ、ドニゼッティにしても、全体的なオーケストラの音楽があつて、そこからメロディが生まれている。ところがヴェルディは、最初から最後まで、彼女のときめきや恐怖、体調までを譜面に書いているんです。

飯森..しかも彼の音楽は、簡潔明瞭ですよ。僕はドイツ・オペラから入ったから、ワーグナーがものすごく好きですけど、同じ1813年に生まれたとは思えないくらい両極端。ワーグナーのオーケストラは厚いし、長いし、理屈をこねるのが好きですが、ヴェルディはそれぞれの場面で行いたいことをきっちり表現している。一本の線のように一貫したものを持ちながら、そろそろ違う音楽を聴きたいなというときにボーンと素晴らしいアリアが出てくる。そこが一番の魅力だと思っていますね。

中丸..音楽としては『椿姫』は、完璧な作品じゃないかしら。
飯森..ですよ。だから、僕は正直言つて、カットするのは好きじゃないですね。

中丸..じゃあ、ノーカットでやります? 賛成ですよ。ヴィオレッタは出ずっぱりで大変などといわれますが、リサイタルと違って、オペラは歌い続けるわけじゃ

ないですから。

飯森..と、言えちゃうところがスゴイですね。(笑)みんなヒイヒイ言ってるのに。でも、ほかの二人も異論はないと思いますよ。

中丸..堀内さん(ジェルモン役)は、日本人には珍しい、という表現がつまりないですが、音符を超えた歌を歌える方ですよ。飯森..それ、すごくよくわかる。
中丸..日本人ですと音符が見えてしまう方が多いんですけど、小節線とか、音符を超えたメロディを歌える歌手かな。
飯森..彼、ものすごく息が長いんですよ。堀内さんのジェルモン、楽しみなな。

中丸..そして、佐野さん(アルフレード役)は、線の細い人が多い日本人テノールの中で、重量感を感じるテノールですね。それはモデナで最初に彼を聴いたときに感じたことなんですけど、思った通りの活躍ぶりです。今回は、二人ともはまり役じゃないかなと思いますね。
飯森..そう思います。三千繪さん、佐野くん、堀内さんと揃えば、もう、日本の最高峰ですからね。大いに楽しみにさせていただきますよ。

中丸..私こそ楽しみにしています。



ある詩人は、「連詩には個性を蹴飛ばす痛快さがある」といい、また別の詩人は「待ったなしで創作する、そのプロセスが楽しい」のだと語った。そして、今年、四回目の登場となる野村喜和夫氏によると、「他者の言語、創造力に干渉されることは苦しいことでもあるが、一人でうっとりしている限りでは絶対に出てこないものが連詩にはある」のだそうだ。

安直な例えで申し訳ないが、個人競技の選手がリレーで別の面白さを見つける、そんな感覚に近いのだろうか。毎回、完成したてに行われる発表の席では、詩人たちの間にきまつて連帯感とも達成感ともつかぬ空気が漂っている。

さて、「しずおか連詩の会」の開催も、今回で十回目。今年は連詩の創始者の一人であり、本会の重鎮、大岡信氏を監修に据え、野村氏を筆頭に、宮沢賢治の研究者でもある天沢退二郎氏、小説の著書も多い小池昌代氏、歌人として知られる穂村弘氏、気鋭詩人を集めた雑誌の編集長も務める和合亮一氏と、いつも増してユニークな顔ぶれ。それぞれの魅力もふんだんに拓かれる創作世界にぜひ注目を。

裏切られたり、してやったり。
どんな言葉が紡がれてゆくのか、
その瞬間までわからない。
だから、連詩は面白い。



大岡 信



野村 喜和夫



和合 亮一

天沢 退二郎
撮影／マリ 林

2009年 しずおか 連詩の会

小池 昌代
撮影／森 幸一

穂村 弘

監 修／大岡 信

参加詩人／天沢 退二郎、野村 喜和夫、小池 昌代、穂村 弘、和合 亮一

【連詩発表・朗読・解説会】11/29(日)

13:30開場 14:00開演 会議ホール・風 司会／桜井 洋子(NHKアナウンサー)

入場無料／要事前申込

【申込方法】

往復ハガキに、住所・氏名・年齢・参加人数を記入(返信ハガキにも宛名を明記)の上、下記の宛先まで郵送して下さい。11/6(金)必着。応募者多数の場合は抽選。
宛先／〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 グランシップ「連詩の会」係



昨年の様子

北村 英治

シャドウ・クラリネットの頃。

「竹箒を切つて、焼け火箸でキーの印をつけて、目をつぶって吹いているといい気持ちになる。音が出ているつもり。お客さんがいるつもり。シャドウ・クラリネットですね。そういう時期が随分長くありました。」

NYの摩天楼が見えた！

氏の話の向こう側にはいつも友人、仲間の笑顔が見え隠れしている。その輪の真ん中でニコニコとクラリネットを手にしている氏の姿が見える。やわらかく豊かな楽器の音色は、そのまま氏の人柄。半世紀以上も前の体験も、ついこの間のエピソードも、氏が語れば幸せな話になるから不思議だ。逆境から楽しみを呼び込む術もまさに天性。それにしてもこの色つや、この闊達さで御年八十歳とは……！そこが唯一、信じ難いところではある。

—— 今年はずいぶんベニー・グッドマン生誕一〇〇年にあたりますが、ご自身がクラリ

ネットを手にしたきつかけこそベニー・グッドマンだったとうかがっています。

「そうなんです。十四歳の時でした。ある日、家に見慣れない小さなレコードを見つけたんですね。たぶん兄貴がこっそり買ったものだったと思うんですけど、何だろうと思ってかけてみた。するとそれは聴いたこともない音楽だったんです。わが家は厳格というか、いわゆる流行り歌は御法度、子どもはクラシック以外は聴いちゃいけない家でしたから、いやあ、驚きました。目をつぶって聴いていると、自分が行ったこともない、でも、絵葉書では見たことのあるニューヨークの摩天楼がパッと現れたんです。あらためてレコードを見ると、「ベニー・グッドマン・オーケストラ」「ドント・ビー・ザット・ウェイ」と読める。さらに左肩に「フロックス・トロット」とあって、今ならそれがステップの種類で、ダンスのために輸入されたものだとかわかってんですけど、当時はそんなこと知りませんからね。学校で友達に得意げにしゃべった際、どんな音楽だと聞かれて、「フロックス・トロット」だって。(笑) 聴いてるとアメリカの景色が見えてきて、金髪の美人まで通るのかかるぞと。それはもう自慢ですよ。」

「だから、大変ですよ。家に友達をよんで聴いていると、母親が「今、アメリカと戦争をしているんだから、そんな音楽を聴いていると憲兵に連れて行かれる」というわけです。それでみんな押し入れに入れられまして。電蓄ではなく、手回しのポータブルを

持ち込んで汗をかきながら、すごい、すごいと聴いたものです。そのうち空襲で家が焼けて、ピアノもレコードも何もなくなくなってしまったんですけど、極東放送が始まって、憧れがまた膨らんでいくんですよ。もう、クラリネットをやりたくて、やりたくて。そんな時、金持ちの息子が進級祝いにクラリネットを買ってもらったんです。それでみんな吹いてみるとヤキモチ半分にけしかけてましてね。ところが音が出ない。じゃあ、俺が、俺がつて、次々に回していくんですけど、誰も音が出せない。ところが自分のところでポツと音が出たんです。俺は天才かな、と思いますよね。(笑)でも、訳ありでね。リードつてあるでしょう。あれが最初は乾いてたわけ。汚い話だけど、みんなの唾液のおかげで僕の番でちょうど具合よくなって、それで音が出ただけなんですけど。調子に乗ってあちこち触ってみて、ポポポポッと吹いたら、それがミッドミッドミッドミッドと鳴って、おつ、すげえ、北村が持った途端に「センチメンタル・ジャーニー」になってるって。(笑)」

——運命の瞬間ですね。それでは最初にご自分のクラリネットを手に入れられた時は、その感動もひとしおでいらしたのではないですか。

「それはもう、ね。ただ、すぐというわけにはいきませんでした。十八歳のその頃、親父もお袋も死んで、一番上の兄貴が会社で勤めて細々と学費を出してくれていて、そんな兄貴に最初クラリネットを買ってほしいと言ったら、冗談言うなと怒鳴られま

した。当然ですよ。じゃあ、どうしようかと考えて、早起きして歩けるところは歩いて、早朝割引も利用して電車賃を節約して、さらにコーヒーも我慢すれば、一年ちょっとでクラリネットの中古くらいは買えるかなと計算したんです。当時、一番安いボロボロのものでも二、三八〇円くらい。昔の楽隊が使わなくなったもので、壊れていないところを継ぎ合わせて、上がフランス製、下がドイツ製なんですけどね。(笑)



次回リリース「デュエット」のジャケットの原画。氏が描くアルバム・ジャケットを毎回楽しみにしているというファンも多い。趣味は、料理、彫金、つり、ゴルフ、落語、絵など。「面白いことは全部やりたいんです」

結局買うまでに一年半ぐらいかかりましたが、その間もお金が増えるのをただ待ってたわけじゃないんです。竹箒を切つて、柄に焼け火箸でキーの印をつけて、指の位置だけ覚えちゃおうと。進駐軍放送は聞けましたし、ピアノの譜もありましたからね。目をつぶって吹いているといい気持ちになるんですね。音が出ているつもり。そこにお客さんがいるつもり。シャドウ・クラリネットですね。そういう時期が随分あって、それが

かえつてよかったのかなと思いますね。」

ベニーのワン・モア・タイム!

——プロになられたのは、慶応大学を中退されてからとうかがってますが。

「その頃は進駐軍の仕事というのがあって、楽器を持つて立っているとトラックで拾ってくれたりしたんですね。拾い仕事っていうんですけど。復員してきた軍楽隊の人が多かったので怖さもありましたが、勉強にもなりましたし、結構面白がつて行っていたようなところもありました。一方、大学ではライト・ミュージックという部でジャズをやつていて、僕のためにスモール・グループを作ってくれたので、それで進駐軍を回ったりもして、評判がよかつたんですよ。おかげで二回もダブリました。(笑)そのうち南部三郎というプロの人が引き抜きに来て、プロになるなら一日でも早いほうがいい、しかも固定給三万円で20本を超えるのと一本につき千円くれるというんですね。即、お世話になった先生の許可を取りつけて、次の日からバンドマンです。」

——その後の活躍は多くの方が知るところですが、ベニー・グッドマンとも共演なさってますよね。

「幸せなことですね。ただ、こちらはビギナーですから、周りのミュージシャンのようにはアガることはなかったですね。ジャム・セッションがあつて、アドリブをワン・コーラスやつたんです。するとベニー・グッドマンがワンモアタイム!と言うから、得意になっ

先般ファイナルツアーを行った原信夫氏(シャープス&フラッツ)については、「ちょっと寂しい気がするけどね。横浜でやったとき、ステージで原さんに今、スケジュールが逆に目白押しじゃないですか、閉店セールを打っておいで、また新装開店したらどうですか、と言ったんですよ。そうしたら原さん、随分気がラクになったみたい」と氏。原氏は北村氏の二歳上。「僕もまだ80歳になったばかり。まだまだですよ。」

【きたむらえいじ】

ジャズ・クラリネット奏者。慶應大学在学中、クラリネットを学び、'51年南部三郎クインテットでデビュー、'54年自己バンドを結成。'57年来日したベニー・グッドマンとジャムセッションを行う。'77年 モンタレージャズ祭に招かれ大好評を博し、連続18回と'96年に出演。以来、欧米、オーストラリア等の大ジャズ祭に出演。テディ・ウイルソン、アール・ハインズ、バディ・デフランコ、ビル・ベリー、スコット・ハミルトンら、名だたるミュージシャンと数多くの共演。'91~'00年、L.A. インターナショナル・ジャズパーティをビル・ベリーと共同企画。スイングジャーナル誌では'77年度南里文雄賞受賞、楽器別人気投票でのポールウィナーは現在も続いている。レコードアルバム数は、すでに100を超え、演奏会では暖かく深みのある音色と独特のフレーズで、聴衆の心を満たし、曲間のお喋りも人気。料理通、趣味人としても知られる。'07年旭日小綬章受章。'29年東京都生まれ。

でもうワン・コーラス吹かせてもらったんですけど、後になってそれは滅多にないことだと聞かされて。そうか、認めてくれたんだ、今まで勉強してきたことは間違いないやなかった。そうしたことが憧れの人に会えたこと以上に嬉しかったことを覚えています。」

——ジャズはずっと独学でいらしたそうですが、五〇歳を過ぎて初めて師事されたとか。「五十一歳の時に、十一歳下の村井祐児に弟子入りしました。この道を拓いてくれたベニー・グッドマンをはじめ、バディ・デフランコやデディ・ウィルソンにもいろいろ教えてもらったし、若手のミュージシャンからも学ぶべきことはたくさんありますが、先生に付いたのはその時が初めてでした。ミュージシャンというのは、歳をとってダメになつていく人が多いんですけど、それは基礎がないからダメだなど。それで顔見知りの彼が芸大の先生になつたというので、半ば強引にお願いしましてね。人間五十過ぎたら進歩はないんですけどね」なんて言われながらも、こちらはワクワクしてね。モーツァルトなんかを教えてくれるのかと思つたら、『ちようちょ』ですよ。(笑)ソミミ、ファレレ、ドレミファソソソまでに三カ月。ソの音の余韻でミを吹きなさいとか。なるほどと感ずる点が多々ありました。クラシックとジャズは同じ楽器を使っているが、まったく違う。だから、そこで習ったことがそのままジャズに通用するわけではないですけど、クラリネットに向かう気持ちは一層深くなりましたね。クラリネットの魅力は無

限ですよ。」

——この秋は「コンコードスイングジャズフェスティバル」で、グランシップでは春に続いたの登場ですが、本場のコンコードにも出演されていますね。

「コンコードは非常に格調高いフェスティバルですね。さらに三大フェスティバルでは、とくに権威のあるモンテレーも一九七七年から何度と呼んでいただいています。ジャズを通じて、仲間は広がっていきますし、みなさん、大事に扱ってくれてありがたいなと思いますよ。今度、グランシップで一緒にやるケン・ペプロウスキーとは会ったことがないんですけど、今年五月にベニー・グッドマンの生誕一〇〇年を記念した、バディ・デフランコ、ペプロウスキー、ボブ・ウィルバーのステージに行った人から、デフランコがよろしく言つたよ、ウィルバーが会いたいと言つたよ、さらにペプロウスキーも秋にエイジに会うのを楽しみにしてると言つたよ、という言伝をもらいました。会ったこともない人から、そんな言葉をもらえるなんて嬉しいですよ。これもジャズの良さかなと思います。ペプロウスキーはベニー・グッドマン・オーケストラにいた人ですから、こちらとしても楽しみにしているんですよ。音のことも静岡はグランシップでしょう。音のことをきちんと考えられているホールなので、初めてでも安心してプレイできるホールだと思います。頑張るというよりも、めいっばい楽しんでやりたいと思っています。」



11/3 (火・祝) チケット発売中!

グランシップジャズライヴ vol.2

ベニー・グッドマン生誕100年

コンコードスイングジャズフェスティバル in 静岡

15:00開演 14:30開場

グランシップ 中ホール 大地

全席指定(税込)／一般 5,000円 学生 2,000円

出演／第1部 五十嵐明要(アルトサクソ)、杉原 淳(テナーサクソ)、原田忠幸(バリトンサクソ)ほか
第2部 ケン・ペプロウスキー(クラリネット、サクソ)、キャロル・ウェルスマン(ピアノ・ヴォーカル)ほか
ゲスト／北村英治(クラリネット)

独歩の傑物

北大路魯山人



好々爺、という感じではない。
身長170センチ、体重80キロ。
当時としては大柄のその風格は威風堂々。
笑顔よりも、への字口の印象が圧倒的に強く
傍若無人、不遜との風評もそ知らぬ体なところがいい。

書家だとか、陶芸家、篆刻家であるとか
あるいは料理人、食通、美学者などの肩書きなどは
後世の凡人が都合よく整理するためのもの。
彼はただ自分の内なるものに憑かれて
素直に生き抜いただけなのだ。

器用であり、不器用でもあり。

芸術家には夢が必要。いいものには境がない。
だから、晩年は〈夢境〉と号した魯山人。
心の内ではいつも口元を逆への字に結び、
夢境に遊ぶ宿老の姿が見えるようである。



つばき鉢／1938年

魯山人にとって、
最も厳しい批評家は彼自身だった。
だから、折り合いとは無縁。
そのこだわりを物語るエピソードも数知れず。
なかでも鴨料理で有名なパリの高級レストランで
薄口醤油と粉わさびを取り出した話は有名だ。
漫画『美味しんぼ』でも彼をモデルとする海原雄山が
同じようなシーンを展開していたことから
ご存知の方も多いに違いない。
「努力といっても、私の努力は遊ぶ努力である」
そう言つて、わが感性を最上の指針に
道を拓いてきた魯山人。
が、好き勝手に振る舞っていたかのように見えて
意外にもそうではなかったのかもしれない。
「三度炊く飯さえ硬し軟らかし 思うままにならぬ世の中」
孤独とは生涯のつきあいだったという彼が
心底求めたものは果たして何だったのだろうか。

北大路 魯山人 〔年譜〕

- 1883 京都府愛宕郡上賀茂神社の社家の次男として生まれる。本名房次郎。
- 1889 木版師・福田武造の養子となる。
- 1899 当時流行の西洋看板書きにより収入を得、書の研究に打ち込む。
- 1904 日本美術展覧会「書」の部で1等賞受賞。宮内大臣田中光顕子爵が買い上げる。
- 1905 書家・岡本可亭に師事、住み込み弟子となる。
- 1907 書道教授の看板を掲げ、福田鴨亭と号す。
- 1921 同人組織「美食倶楽部」発足。
- 1925 「星岡茶寮」を開く。
- 1927 北鎌倉に「魯山人窯芸研究所」発足。
- 1936 「星岡茶寮」を追われる。
- 1938 『雅美生活』創刊。
- 1945 空襲により「星岡茶寮」全焼。
- 1946 銀座5丁目に魯山人工芸処「火土火土美房」開設。窯場を「魯山人雅陶研究所」と改称。
- 1951 パリの「現代日本陶芸展」に出品。イサム・ノグチ、山口淑子夫妻が魯山人邸の一棟、田舎屋に入居。
- 1954 欧米各地を行脚。ニューヨーク近代美術館にて「魯山人展」開催。
- 1955 重要無形文化財の指定を受けるよう勧められるが固辞。
- 1959 ジストマによる肝硬変にて死去。西方寺に埋葬される。

刻



感興の触れるままに

赤壁賦 刻字屏風／1914年

26歳で朝鮮に渡った折、中国へ足を伸ばすなどして篆刻を学び、帰国後、京橋で書、篆刻の看板を掲げる。「美と接吻を続けるのであれば、芸術家としての生命はない。感興の触れるままに、順序もなく統一もなく、極めて散漫に制作している。」

書



書は下手形の手がよい

相見可々笑／1938年

総合芸術家たる魯山人の出発点は、書であった。書には必ず「美」がなければならぬと説き、筆をとると一気に文字をつくったのだという。「仰いでは宇宙に字を書け。附しては砂上に字を書え。」その言葉、その心からして美しい。

陶



当意即妙の連続

備前手をけ／1958年

「芸術とは計画とか作為を持たないモノ、刻々に生まれ出てくるものである。」備前焼に始まり、九谷、織部、萩、唐津まで、種類を超えて作陶するあたり、普通の陶芸家とは違う。「芸術も、いわばその日の出来ごころである。」という言い方が何ともチャarmingである。

食



器は料理の着物

木の葉平向／1953年

「食器を作るには食を知らねばならない、食を知るには料理の仕方を知らねばならない。」というのが魯山人の理屈。流通が未発達であった当時、金に糸目をつけずに陸路、空路で食材を調達していた彼は、すなわち産地直送の先駆者でもあったのだ。

花



花で絵を描くのが生花

備前旅枕花入／1958年

同じ花でも花屋に売っている花は、畠で育った花であるから、面白くないのだという。「自然美がわかって後、止むに止まれなくなって、切り花を部屋に生けるのが真の生花である。」彼の生花は、自然の営みを読み取ることから始まっているのだ。

茶



美的趣味総合大学

黒織部沓／1952年

彼にとって茶人とは、あらゆる美の指導者。茶道を知らずして、書や陶芸、料理、花など、日本文化を知ることはないと考えていた。「独り、この「茶道」校があるのみ」。茶人という人種は敬遠していたようだが、「茶のある人間になりきりたい」と記している。

耽溺の才人、魯山人。
彼の美学にふれる名品
二〇〇点。

北大路魯山人は、生涯に何と二〇万点もの膨大な作品を残しているという。しかも特筆すべきはそのほとんどが生活の中で「使える」ものであることだ。芸術品であり、生活品であるということ。

と。そうした事实は、趣味人と呼ぶには情熱と才能が有り余り、達人と呼ぶにはあまりに多才であった魯山人にしか成しえない仕事であったともいえる。

折しも没後五十年にあたる今年は、巷で魯山人熱が再沸騰。そうした高まりに呼応して、グランシップでは、いよいよ『北大路魯山人展』を開催する運びとなった。

魯山人の所蔵で知られ、毎秋の世界写真家展ではおなじみの何必館京都現代美術館の協力を得ての本展では、初公開作を含む名品約二〇〇点を展示の予定。生涯をかけて日本の美と食を追求した才人の作品を〈陶〉〈書〉〈刻〉〈茶〉〈花〉〈食〉〈季〉という七つのテーマに分けて紹介する。

何必館の梶川芳友館長いわく、「彼にとつてすべては一つ。魯山人とは、あらゆるジャンルを統合する作家であり、つねに既存の概念を逸脱する芸術家である」。

今回は特別にニューヨーク在住の女流画家 MAYA MAXX が魯山人をテーマにライブペインティングを披露。また、

金泥書 フォーラム

天平時代に光を放った書法。
輝く文化として後世に。

仏教美術に富んだ天平時代、純度の高い金粉を膠溶液で練り、紫・紺色の上に筆書きする「金泥書」(きんでいしょ)は、この時代に熟達した文化技法の一つであるといわれるが、詳細については未だ謎も多い。

その謎解きの第一人者として知られるのが静岡市在住の福島久幸氏であり、氏が解明したこの日本古来の書法を後世に伝え、日本の古典の素晴らしさを共有しようと立ち上がったのが本団体である。

精神を集中させ、緊張の中で行う書写は「静」の空気。だが、展覧会や講演会、座談会、月末日曜日の連続講座のほか、福島氏を招いての実技講座や氏による教典の復元活動への後押しなど、精力的な「動」の働きかけが目を引く。ホームページには奈良国立博物館所蔵の国宝「紫紙金字金光明最勝王経」が紹介されているが、金泥の難しさ、謎の深さを知ると、本物を間近に見たいという気持ちが一層高まる。これもまた、活動の確かな成果の一つだ。



- 団体名／特定非営利活動法人 金泥書フォーラム
- ジャンル／学術(歴史)
- 設立／2004年
- 会員数／60名
- 代表者／赤羽勝雄
- 活動拠点／静岡市清水区
- 活動エリア／静岡県中部地区
- 実績／金泥書講座、講演、展覧会、実技講義を開催。金字写経などを東大寺、興福寺、スミソニアン・フリア美術館に納めるほか、08年福島久幸著『天平金泥経典の謎』を発行。

季

自然美礼讃一辺倒



雲錦鉢／1938年

「人の作った美術も尊重するが、絶対愛重するものは自然美である。」なぜなら「美の源泉は自然であり、美味の源泉もまた自然にある」からだ。自然の生命に美の極致があるとする彼の視座は、その作品からも十分うかがい知ることができる。

北大路魯山人展 生活の中の美

グランシップ開館10周年事業
何必館コレクション

チケット発売中!

- 12月11日(金)～2010年1月11日(月・祝)
- 10:00～17:00(入場は16:30まで) ※会期中無休
- 6階展示ギャラリー
- 一般 800円(当日1,000円)
高校・大学生&70歳以上 400円(当日500円)
※中学生以下、身体障害者手帳、療育手帳、
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料。

12/12(土) MAYA MAXX 「ライヴ・ペインティング」
1/ 2(土) MAYA MAXX 「書き初め・トーク」

年明けには彼女による「書き初め」も行われる予定だ。ぜひ、お楽しみに。

大きな刺激から、小さな変化は生まれる。

ビット・バイ・ビットの精神。

20歳で劇団を創設。当時、演劇を文化として認める人は決して多くはなかった。「だからこそ演劇を暮らしの中に浸透させたい」と、人々のある種特異にかつ精力的に活動を展開。現在の活動拠点であるへいの実シアターへ実現についても、劇団員とともに資金を積み立てるなど、地道な努力と10年の歳月を注いだ。

現在、NPO法人「あしぶえ」では、事業の柱として〈演劇公演の制作・上演〉〈表現・コミュニケーション能力の育成〉〈文化施設の管理・運営〉〈国際演劇祭の運営〉の4つを掲げているが、その名を広く知らしめたのは、何といっても過去3回の成功を収める「八雲国際演劇祭」である。

「『ゼロ弾きのゴーシュ』で最高賞をいただいた第2回アメリカ国際演劇祭。そこで見た観客の反応のすごさとボランティアスタッフの生き生きと輝く活動に大きな刺激を受けまし

た。地域の人々を巻き込んで国際演劇祭を開催すれば、文化による地域づくりができる」と確信したのです」。

99年の第1回からすでに300人を超える住民がボランティアとして参加し、海外からの問い合わせも回を重ねることに増えている。国内外から訪れる劇団員、審査員は、すべて地元の家庭にホームステイするという仕組みも八雲スタイル。プレハブレストランでは、オリンピックの選手村のように参加者・住民ともに和気あいあいと食事を楽しむ光景が見られた。

「山の中の何もなかったところに劇場ができる。見たこともない国際演劇祭が開催される。そうした大きな刺激から、住民の暮らしに小さな変化が生まれる。これらの小さな変化の積み重ね、つまり、ビット・バイ・ビット(bit by bit) 少しずつ。これが大切ですね」。

公立で提供している作品は、

果たして市民みんなのものか。

ニーズをきちんと満たしているか。

「公立で提供している作品は、果たして市民みんなのものになっているでしょうか」。

バンクーバーで毎年行われる「国際

チルドレン・フェスティバル」では、地域

の学校がどういう勉強しているか、どんな文化に触れているのかを把握した上で、「学校では提供されないも

園山土筆

1966年、鳥根県松江市で〈演劇を人々の暮らしの中へ〉浸透させたいと、「劇団あしぶえ」を創立。2005年、「NPO法人あしぶえ」として、理事長、演出、劇作、制作を務める。演出の代表作「ゼロ弾きのゴーシュ」でアメリカ、カナダの3つの国際演劇祭で「第1席」「演出賞」「観客が選ぶ作品賞」「視覚的舞臺表現最優秀賞」など6つの賞を受賞。国内初の公設民営劇場「へいの実シアター」の基本・実施設計に参画し、管理運営。このシアターを拠点に、あしぶえの演劇公演、表現・コミュニケーション能力育成講座のほか、「八雲国際演劇祭」を開催し、芸術監督兼マネジングディレクターとして400人のボランティアスタッフとともに「演劇によるまちづくり」を推し進めている。

の」を提供しているという。

「日本もそういう時期に来ているのではないかと。そして、それが公立の仕事ではないかと思うんです」。

さらに0歳から絵本にふれる「ブックスタート」があるように、0歳から芸術にふれる「アートスタート」があつていいとの考えから、へしの実シアターでは、乳幼児と保護者のための人形劇の上演を行っている。

「としやぶりの雨の中をやつてくる

親子の姿にやはりニーズはあるのだと感じました。一方、劇場に來たくても手段を持たないお年寄りには、バス一台を準備すればいいのです。アウトリーチという発想はあつても、不便な地域に住んでいる方にはどうすべきか、というところがこれまで足りなかつたんですね。障害を持つ方にも字幕や音声案内を用意するだけでなく、楽しんでもらうためにもう一歩踏み込んだ工夫を模索しているところです」。

住民の文化度を上げるプログラム。 住民にとって存在価値のある運営。

良質な作品を提供することは重要だ。しかし、それが良質なもので、そうでないかは、多くのものを見ていなければ判断はできない。

「そして、子どものうちから良質なものに触れる機会を提供し、地域の文化度を上げていくことが大切です」。

さらに毎年充分な予算を投入して、良質な芸術祭を開催していた出雲市が、歌舞伎小屋建設計画を頓挫しなければならなくなったのも、住民の文化度に起因しているという。「良質な作品だけでなく、市民の文化度が上がっていくプログラムを提供することも公立の役割」と語る。

また、施設の役割については、「施設には期待を胸に積極的に出かけていく人もいれば、今は行けないけれど将来行きたいという人、親には

行かないけれど施設を誇りに思う人もいる。また、劇場の近くのお店が利用されて地域経済を潤す、ということもある。すなわち、施設はさまざまな人にとって存在価値のある運営をすすめるべき」と提言する。さらに施設の貸館事業についても言及。「音楽評論家の佐藤克明さんが「貸館は市民の自主事業」と言っておられました。その言葉に私はなるほどと開眼した思いがしました。単にスペースを貸すというのではなく、地域の人々の自主事業をホールのスタッフが上手にサポートする、というスタンス。使いやすかった、気持ちよかったという声を、また使いたいという方向へつなげていくことも施設の役割なんですね」。

この後、質疑応答にたつぷり1時間。これも園山土筆流であるという。



REPORT

平成21年度静岡県公立文化施設協議会自主事業研究会 基調講演より

「公立」の役割、「文化」の役割、「施設」の役割

～地域の文化度を高め、地域住民との関係性をつくる～

於:平成21年7月7日 グランシップ910会議室

公立とは？文化施設とは？ 園山土筆と「あしぶえ」、 その活動からの提言。

島根県の緑豊かな山里、人口7,000人の旧八雲村（現松江市八雲町）に小さな劇場ができたのは、1995年のことだ。村木「しいの木」を使ったベンチシートに108席。木の香とぬくもりに満ちた劇場の名は、〈しいの実シアター〉。それは日本初の公設民営の劇場の誕生であり、今回の講師である園山土筆氏と氏が率いる劇団「あしぶえ」にとって「世界に向けて演劇を発信する」という夢の始まりでもあった……。



※「静岡県公立文化施設協議会」：県内の公立文化施設の加盟館の連絡研究によって、ホール機能を充分に発揮し、地方文化の向上に資することを目的としている。事務局は会会所属施設（グランシップ）、加盟館43館。

昭和二十二年から昭和二十五年の半ばまで、清水の栄寿座において、映画上映の合間に上演されていた、「劇団ポトシミズ」をご存知の方は、かなりの年輩になっておられるはずだ。かく言う私とて、昭和二十二年に清水の岡小学校に入学した身であり、味わうことのできた世代ではない。

だが、戦争が終わって二年目であった昭和二十二年八月の静岡新聞には、清水港復活の華々しいイベントの模様を伝える記事が、いきおいよく紹介されていて、演奏は劇団ポトシミズの楽団だったと書かれている。それを目にする以前から、私は劇団ポトシミズを物書きとしてつかまえてみたいという思いを抱きはじめていた。

それに、私が育った家から岡小学校へ向かう途中に、劇団ポトシミズの役者が間借りをしていたという記憶が私には残っている。榎の垣根のすきまから、当時としてはカラフルな服装の団外を通るのを、私は時どき垣根の内側から見ていた。

「あ、あ、ポトシミズの衆だよ」と言っていた祖母の声も、あざやかに残っている。

劇団ポトシミズは、誰かに連れら

れて三度ほど見たはずだ。映画の合間のコント的な作品の、波止場でピストルを撃ち合うシーンと、主役のフジタフミオという名前が、頭に灼きついている。小学校低学年の頃のこんな記憶が、妙に強い余韻を残している理由は、自分にもよく分からなかった。

劇団ポトシミズには、新宿ムーシライトルージュから楠トシエが参加していたし、美空ひばりも幼いときに出演していた。そんな噂話は、のちに清水の人から聞かされていた。だが、劇団ポトシミズについての資料ということになると、まったく無いにひとしかった。

いつかそのうちに……と思う気持ちに近年になってつり、ある人のお世話で手に入った資料や、静岡市史、清水市史、清水・戸田書店発行の雑誌『清水』の劇場特集の号などをながめつつ、腰をあげるきっかけをさぐっていた。そして、『週刊新潮』の「告知板」という欄で情報を求めてみると、何人かの方々からご連絡をいただいた。

その中に、八十をすぎられた楠トシエさんから、劇団ポトシミズの文芸

わが心の劇団ポトシミズ

部に属しておられた焼津市在住の羽沢寛二さんからのお手紙があり、このお二人にお目にかかって、私は自分の気持ちに気合いを入れることができた。

その結果、戦後の清水みなとに三年半だけ花ひらいた劇団ポトシミズを覗き穴として、三百枚ほどの作品を書き下すことができた。ようやく、胸のつかえが溶けた気分だ。いわば現在の日本中の誰もが知らないと言いたい劇団の歴史を軸に、いったい何が描けるか。自分自身でも楽しみだ。だが、けっこう強い手応えが残った。『清水みなと』の名物は「わが心の劇団ポトシミズ」というタイトルに、強い思いを込めたつもりである。



【むらまつともみ】作家。東京生まれ。小学校～高校時代を清水（現静岡市）で過ごす。慶応義塾大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文筆活動に入る。小説、エッセイ等、著書多数。『時代屋の女房』で直木賞、『鎌倉のおばさん』で泉鏡花賞受賞。





公演情報

2009/10-2010/1

※8月現在の情報です。出演者、天候等の都合により、公演の内容が変更されることがあります。



9/27(日)チケット発売 12/11(金)・13(日)

G CN P Pコード333-167 **S**

グランシップ開館10周年記念事業 オペラ「椿姫」(字幕付原語上演)



鈴木 忠志(演出)



飯森 範親(指揮)



中丸 三千繪(ヴィオレッタ)



佐野 成宏(アルフレード)

- 12/11(金) 18:30開演(18:00開場)
- 12/13(日) 14:00開演(13:30開場)
- 中ホール・大地
- 全席指定 S席 10,000円 A席 8,000円
学生席 5,000円

→P4~参照



チケット発売中 12/11(金)・1/11(月・祝)

G L Lコード47120 **P P** Pコード986-551 **S T KY**

グランシップ開館10周年記念事業 何必館コレクション 生活の中の美 北大路魯山人展



つばき鉢



茄子形蓋物



雪月華



黄瀬戸茶碗



志野すき四方鉢



桃山風貌

- 10:00~17:00(入場16:30まで) 期間中無休
- 6階展示ギャラリー
- 一般 800円(当日 1,000円)
- 高校・大学生・70歳以上 400円(当日 500円)

→P16~参照



チケット発売中

11/3(火・祝)

G CN L Lコード46135 **P P** Pコード325-850 **S**

グランシップジャズライブ vol.2 ベニー・グッドマン生誕100年 コンコードスイング ジャズフェスティバル in 静岡

魅力のプレイヤーをそろえて、今年はベニー・グッドマンのナンバーをたっぷり。

【出演】

第一部/
五十嵐明要(A.sax)、
杉原淳(T.sax)、
原田忠幸(B.sax)、
中牟礼貞則(G)、
山本剛(Pf)、
鈴木良雄(B)、
大隅寿男(Ds)

第二部/

ケン・ペブロウスキー(CI、Sax)、
キャロル・ウェルスマン(Vo、Pf)、
ピエール・コテ(G)、
レネ・カマチョ(B)、
ジミー・ブランリー(Ds)

【ゲスト】北村英治(CI)

■15:00開演(14:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定 一般 5,000円(当日 5,500円)
学生 2,000円(当日 2,500円)

→P11~参照



北村英治



入場無料/要事前申込

11/29(日)

2009年 しずおか連詩の会



昨年の様子

【監修】大岡 信

【参加詩人】天沢退二郎

野村喜和夫

小池昌代

穂村 弘

和合亮一

■14:00開演(13:30開場)

■会議ホール・風

■入場無料/要事前申込 11/6(金) 必着
申込方法/往復ハガキに、住所・氏名・年齢・参加人数を記入(返信ハガキにも宛名を明記)の上、下記あて先まで郵送のこと。応募者多数の場合は抽選。

宛先/422-8005 静岡市駿河区池田79-4

グランシップ「連詩の会」係

→P10~参照



チケット発売中

10/3(土)

G CN L Lコード46160 **P P** Pコード395-744 **S**

グランシップ名人会 其の五 「国本武春独演会」

当代きっての人気浪曲師がついにグランシップ初見参!三味線にギターのフレーズを取り入れた独創の“三味線ロック”の弾き語りは、アメリカでも大人気!

「よっ!日本ー!」

■14:00開演(13:30開場)

■6階交流ホール

■全席指定

一般 3,500円

学生 1,500円



チケット発売中

10/16(日)

G CN L Lコード46162 **P P** Pコード395-859 **S**

人形浄瑠璃「文楽」

昼の部は、京都三十三間堂の棟木にまつわる悲しく不思議な物語「卅三間堂棟由来」、夜の部は江戸中期の時代物「絵本太功記」より一番人気の〈尼ヶ崎の段〉ほか、通にも初心者にも見どころ多彩なプログラム。

【演目】

昼の部/「卅三間堂棟由来」(さんじゅうさんげんどうむなぎのゆらい)〈平太郎住家より木遣音頭の段〉、「本朝廿四孝」(ほんちょうにじゅうしこう)〈十種香の段〉〈奥庭狐火の段〉

夜の部/「絵本太功記」(えほんたいこうき)〈夕顔棚の段〉〈尼ヶ崎の段〉、
日高川入相花王(ひだかがわいりあいざくら)〈渡し場の段〉

■昼の部/13:30開演(13:00開場)

夜の部/18:30開演(18:00開場)

■中ホール・大地

■全席指定 一般 3,500円(当日 4,000円)

学生 1,500円(当日同額)

昼夜通し券/一般 6,300円(当日 7,200円)

学生 2,500円(当日同額)



八重垣姫 本町廿四孝
~奥庭狐火の段~



武智光秀 絵本太功記
~尼ヶ崎の段~



参加無料/要事前申込

10/16(日)

わかる! 文楽入門講座

「文楽」本公演チケット購入者のみの特典。人形遣いを間近に見学できるほか、自ら体験も。

■17:00~17:30

■2階映像ホール

■参加無料/要事前申込 先着90名

■申込先/(財)静岡県文化財団 企画制作課

TEL054-203-5714



託児をご希望の方は、公演1週間前までに(財)静岡県文化財団企画制作課までご連絡ください。☒ 054-203-5714

※お預かりできるのは、2歳以上の未就学のお子様に限ります。



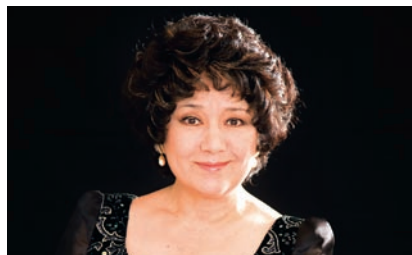
10/18(日)チケット発売

1/29[㊤]

G CN Lコード48035 Pコード337-126 S

中村絃子

デビュー50周年記念ピアノ・リサイタル



©尾形 正茂

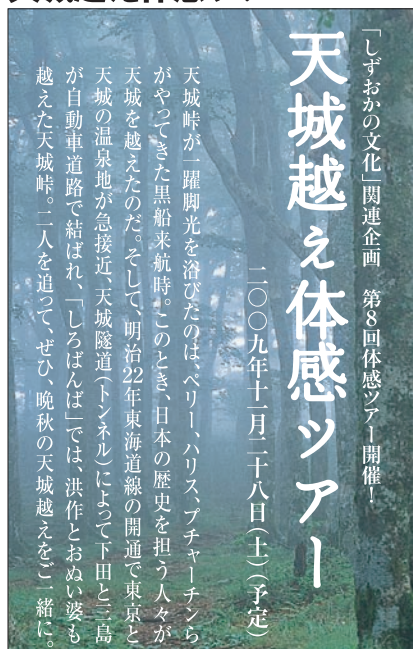
10年前、グランシップのオープニングを飾った中村絃子が、50周年を記念してデビューリサイタルの再現プログラムで登場。

【曲目】ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」
ラフマニノフ／2つの前奏曲
ショパン／練習曲「黒鍵」「革命」、
ポロネーズ「英雄」ほか

■19:00開演(18:30開場)
■中ホール・大地
■全席指定 料金未定



予告

11/28[㊤]「しずおかの文化」関連企画
天城越え体感ツアー

「しずおかの文化」関連企画 第8回体感ツアー開催！

天城越え体感ツアー

二〇〇九年十二月二十八日(土)(予定)

■コース案内(予定)

1. 天城湯ヶ島の「しろばんばの里」巡り
2. 天城峠の天城隧道と氷室を散策
3. 河津の福田屋旅館と河津の七重巡り

◆ツアーの日程・コースは変更の可能性あり。
詳細決定後、静岡県文化財団ホームページ・案内チラシ等にて告知。

◆お問合せ先:
財団法人 静岡県文化財団 tel.054-203-5714



チケット発売中

1/22[㊤]

G

提携公演／シンフォニエッタ 静岡
第14回定期演奏会モーツァルト:ジュピター &
プーランク:モノ・オペラ「声」

ウィーンのヴァイオリニストを新メンバーに迎え、30名の精鋭が奏でるウィーン伝統の「ジュピター」。モノ・オペラ「声」は、コクトーの台本によるオペラとベルナール・ビュフェの版画が舞台上で同時展開される世界初の試み。

【指揮】中原朋哉
【出演】原田和加子(メゾ・ソプラノ)
■19:00開演(18:30開場)
■中ホール・大地
■全席指定 S席 8,000円 A席 6,000円
B席 4,000円
C席・車椅子席 3,000円
親子席 3,000円 *25才未満半額



10/25(日)チケット発売

1/24[㊤]

G CN Lコード47896 Pコード398-604 S

グランシップ静岡能



新春の吉例「静岡能」。宝生流による今年の演目は、祝言の曲目でもある「石橋」。宝生流第二十世宗家、宝生和英がつとめるシテの勇壮な舞は見もの、また、緊迫感あふれる囃子方が聞きものの一曲。

【演出】
能「花月」(シテ/水上 優 ワキ/森 常好)
「石橋」(シテ/宝生和英 ツレ/大友 順)
狂言「寝音曲」(野村萬斎・野村万之介)
仕舞「八島」(藤 ケセ)「三山」(善知鳥)
■14:00開演(13:30開場)
■中ホール・大地
■全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円
学生 2,000円



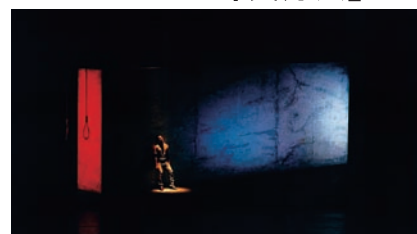
10/6(火)チケット発売

1/16[㊤]・17[㊤]

G

提携公演／バレエ団芸術座

深沢和子創作バレエ「異邦人」



アルベール・カミュの「異邦人」を創作性に満ちた見事なバレエに作りあげた深沢和子。ドラマ性にあふれ、映像的、視覚的とも評価される成功作だ。

【演出・振付】深沢和子
【出演】篠原聖一、キミホハルバート、武元賀寿子ほか
■1/16(土) 18:30開演(18:00開場)
1/17(日) 15:00開演(14:30開場)
■中ホール・大地
■全席自由 5,000円



入場無料

1/17[㊤]・31[㊤]静岡の魅力 第5回フォトコンテスト
入賞作品展

今年も力作が寄せられ、優秀作品が決定。

■10:00~17:00(入場16:30まで)
■6階展示ギャラリー



前回受賞作
最優秀賞
「冬木立ち」 川口芳郎
(静岡県静岡市)

前回受賞作
部門大賞・自由部門
「放水中」 鈴木邦明
(静岡県浜松市)



入場無料

1/17[㊤]

トークショー

カントクが語る映画の
世界、写真の世界!

【出演】山本晋也
(映画監督)

■時間未定
■会議ホール・風



JUST FINISHED!



大植 英次氏 26.Jun 2009

「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー」公演終了後、中ホール・大地のロビーにて。サインの求めに笑顔でこたえて。

読者 Presents

サイン入りパンフ&Tシャツプレゼント。



左記「ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー」より指揮者大植英次氏のサイン入りパンフレットを、また8/15・16開催の「おとみち2009」よりオリジナルTシャツを各3名にプレゼント。ハガキに住所、氏名、電話およびプレゼント名を明記の上、下記あて郵送を。(平成21年11月30日消印有効)なお、当選者は商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップG係 TEL054-203-5714

MEMBERS 「グランシップ友の会」会員募集

グランシップが開催する公演・イベントをよりおトクに楽しんでいただくためのメンバーズクラブ「グランシップ友の会」。ぜひ、あなたもご入会を。

■会員タイプ・年会費(初年度年会費は入会月により異なります。)

- ◆レギュラー会員 年会費 2,000円
- ◆法人特別会員 年会費 200,000円
- ◆法人一般会員 年会費 100,000円

■特典

- ◆チケット割引10%割引
- ◆チケット先行予約
- ◆公演情報誌送付
- ◆提携店割引
- ◆法人会員特典(情報誌上に社名掲載)

(チケット代金のカード払いを希望の場合、NICOS・VISA・Master他提携カードの利用可)

■お申し込み・お問い合わせ

グランシップ友の会事務局

〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップ3階

TEL.054(203)5714 FAX.054(203)5716

〈友の会法人会員〉

静岡ガス(株)、(株)タミヤ、鈴木(株)、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・コム、(株)劇団ひまわり、(株)ステージ・ループ、静岡県ビルメンテナンス協同組合、静岡信用金庫、(株)ビーエーシー、(株)テレビ静岡、(株)静岡第一テレビ、(株)コカ・コーラ セントラル ジャパン(株)、(株)ダイドードリンコ(株)静岡支店、(株)イノウエテクニカ、(株)伊藤園、静岡エフエム放送(株)、(株)ニッセー日本平ホテル、(株)コアズ

財団法人 静岡県舞台芸術センター 〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5730 <http://www.spac.or.jp>

SPAC NEWS



ドン・ファン

静岡芸術劇場

演出 オマール・ボラス
原作 ティルソ・デ・モリーナ・ナモリエール
出演 SPAC

- 10月3日(土) 15:30 開演
- 4日(日) 14:30 開演
- 10日(土) 15:30 開演
- 11日(日) 14:30 開演
- 12日(月祝) 14:30 開演

〔中高校生鑑賞事業対象作品〕

SPAC俳優による 朗読とピアノの午後

静岡芸術劇場 1階ロビー

構成・演出 大岡 淳

- 10月17日(土) 15:00 開演
- 18日(日) 15:00 開演
- 11月14日(土) 15:00 開演
- 15日(日) 15:00 開演
- 21日(土) 15:00 開演
- 22日(日) 15:00 開演

夜叉ヶ池

静岡芸術劇場

演出 宮城 聡
作 泉 鏡花
音楽 棚川 寛子
出演 SPAC

- 10月24日(土) 19:00 開演
- 25日(日) 16:30 開演
- 31日(土) 14:00 開演
- 11月1日(日) 16:30 開演
- 7日(土) 15:30 開演
- 8日(日) 16:30 開演

〔中高校生鑑賞事業対象作品〕

走れメロス

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

構成・演出 安田 雅弘
原作 太宰 治
出演 SPAC

- 大内 米治、大道無門 優也
- 11月28日(土) 15:30 開演
- 29日(日) 15:30 開演
- 12月5日(土) 15:30 開演
- 6日(日) 15:30 開演

沼津市民文化センター・小ホール

- 11月4日(日) 18:30 開演

オペラ 椿姫

グランシップ中ホール・大地

作曲 ジュゼッペ・ヴェルディ
台本 フランチェスコ・マリヤ・ピアヴェ
演出 鈴木 忠志
指揮 飯森 範親

出演 ヴィオレッタ 中丸 三千繪
アルフレード 佐野 成宏
ジェルモン 堀内 康雄

合唱 藤原歌劇団合唱部

ダンス Noism 1 [振付 金森 稜]

助演 SPAC

管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団

- 12月11日(金) 18:30 開演

13日(日) 14:00 開演

逃げ水

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

演出 夏井 孝裕
作 角 ひろみ

出演 赤木 真、岩本 和馬、織田 紘子、河合 穂高、西 園加

- 10月24日(土) 16:30 開演
- 25日(日) 13:30 開演

Nameless Poison

静岡芸術劇場

演出・振付 金森 稜

衣裳 中嶋 佑一 [artburt]

出演 Noism1

- 12月19日(土) 17:00 開演
- 20日(日) 17:00 開演

SPAC 秋のシーズン 2009年10月3日[土]～12月20日[日]

特集! 命がけの愛

チケット前売り開始/9月13日(日)

●電話予約/SPACチケットセンター Tel.054-202-3399 ●ウェブ予約 <http://www.spac.or.jp>

TOPIC-1

にぎわいの10周年“夏” サマーフェスティバル



105人の時間展



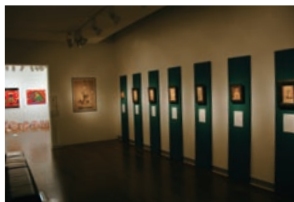
グランシップ音楽の広場



ビッグバンドフェスティバル



おとみち2009



村上征生氏の作品展

8/1～16、開館10周年記念の「グランシップサマーフェスティバル」では、多くのイベントが開かれた。「105人の時間展」「音楽の広場」「ビッグバンドフェスティバル」「おとみち2009」の他、展示ギャラリーでは「開館10周年記念展示～グランシップ10年間

の軌跡～」を開催。大ホール・海の開放日(8/5～7)にも多くの家族連れが訪れ、グランシップでの夏休みを満喫。また、本誌22～41号の表紙を飾った村上征生氏の作品展には、村上氏本人も度々来場。鑑賞者たちと親しく交流する場面も見られた。

TOPIC-2

ふじやまと競う、技の匠
「全国建具フェア」静岡大会

「ふじやまと競うぞ、技の匠たちしずおか2009」をスローガンに、6/20・21、第54回全国建具組合連合会業者大会／第43回全国建具展示会が大ホール・海ほかにて開催された。全国から選りすぐりの障子、ドア、衝立、その他、木製品約150点が一堂に集結。伝統の技と創意工夫から生まれた繊細な作品には、来場者から感嘆の声もあがっていた。

TOPIC-3

静岡市各区が音楽競演
「BRIOしずおか2009」

6/27、約3,500人の来場を集めた静岡市民大音楽祭「BRIOしずおか2009」。20回目を飾る今年は、駿河区は「赤のステージ」、葵区は「緑のステージ」、清水区は「青のステージ」と区の特徴を生かした演出に観客も興奮。ラストの静岡市立商業高校のマーチングでは会場のボルテージも最高潮に盛り上がった。

TOPIC-4

劇団ひまわり研究生による
発表会「Born Festival」

8/14・8/15、交流ホールでは劇団ひまわり静岡エクステンションスタジオ成果発表会「Born Festival」を開催。幼稚園～青年部の研究生が6作品を発表。豊かな表現力と多彩な演技にのべ約750名の観衆は、今後の活躍への期待を込めて惜しめない拍手を送った。

TOPIC-5

グランシップレストラン
秋の新メニュー

ボークヒレ肉のベーコン巻きステーキ
秋茄子のソース(ライス付)¥1,365
香ばしく焼きあげたステーキと秋茄子の風味が好相性。11/30までの限定メニュー。本誌・ホームページご覧の方のみの特別料理につき、前日までに要予約。グランシップレストランオアシスまで。
TEL 054-202-2980

TOPIC-6

あなたもサポーターに。
2009年度メンバー募集中。

「グランシップ」を支えるボランティアスタッフ「グランシップサポーター」の新規メンバーを募集。性別・年代不問。お気軽にご応募を。※10/31締切

【募集人数と活動内容】

- 平常業務3名／決まった曜日で活動(今回の募集は日曜のみ)
公演用配布物の折込作業・発送業務など
- イベント業務10名／イベント時に活動
公演時の受付・場内案内・チケットもぎりなど
- 託児業務7名／イベント時に活動
公演時の託児対応 ※要保育士資格
- 撮影業務1名／イベント時に活動
イベント、公演の記録撮影など

【応募要件】

県内在住で18歳以上(高校生を除く)、月2回以上活動でき、事前研修に参加できる方

【活動開始】

2010年4月(登録期間は5年)

【募集説明会】

10/18(日) 13:30～15:00
グランシップ2階 映像ホール

【応募方法】

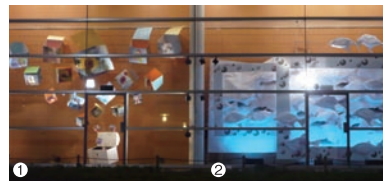
応募用紙に必要事項を記入の上、下記あて郵送または持参を。なお、託児業務希望の方は保育士資格証明書(写し)を、撮影業務希望の方は写真作品(テーマ自由、サービス版)を添付のこと。(写真等は返却しません)

【応募・問合せ】

(財)静岡県文化財団 企画制作課
〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4
グランシップ内
TEL054-203-5714 FAX054-203-5716

GRANSHIP
SHOW-WINDOW ALBUM

今回はルネサンス・デザイン・アカデミーのインテリアデザイン科、雑貨デザイン科のみなさんが参加。たくさんの思い出、感情が飛び出した瞬間をイメージした「思い出BOX」と、「時間は止まらない」をキーワードに、一生泳ぎ続けるマグロで時間の流れを表現した「non stop」。



①テーマ／「思い出BOX」

制作／専門学校ルネサンス・デザイン・アカデミー
インテリアデザイン科

②テーマ／「non stop」

制作／専門学校ルネサンス・デザイン・アカデミー
雑貨デザイン科

交流ホールで懇親会!



交流ホール



雰囲気がよく、使いやすく、料金も手頃。

参加者に喜ばれるレセプション会場なら!

また、JR東静岡駅に隣接するロケーションと、パーティースペースとしてはお手軽の料金で利用できることから、利便性、費用の面で参加しやすいとの声も多く寄せられている。懇親会に欠かせないケータリングについても、フィンガーフードから本格的なパーティーメニューまで、目的に応じてこまやかに対応。ちなみにこの交流ホールは、展示会や講演会、ダンス会場として利用できるほか、同フロアの展示ギャラリーと併用で、展示会のオープニングパーティー会場としての利用もオススメだ。



illustrated by
AKO



グランシップじゃなきゃ! の魅力は

③

ケータリングもおまかせ!



②

可動式クローク棚にはハンガーも常備!



①

多彩に使える! 多目的ロビー (南ホワイエ)



交流ホール南側、エレベーターにも近いホワイエは、受付に最適。クローク棚を設置すればクロークルームの役割も果たせるほか、スタッフの控室や休憩スペースにも使えるなど、活用スタイルは多彩。さらにパーティーに欠かせないケータリングサービスもグランシップのスタッフにおまかせを。

※問合せ/グランシップケータリングサービス TEL054-202-2980 FAX054-202-2979

交流ホール 概要

- 床面積 432m²/フローリング床
- 天井高 中央部 8.4m/周辺部 6.9m
- 客席 シアター形式400席、スクール形式(3人掛け)258席、立食パーティ形式350人
- 付属設備 ロビー86m²(クローク棚5/W1800×H2100×D600)
- 音響設備(利用料金に含む)
CDプレーヤー・カセットテープレコーダー・MDレコーダー・ワイヤレスマイク・有線マイク
- 機 構 吊り物バトン4本(東西南北各1)



ダンスパーティー



ウエディングパーティー

施設及び付帯設備利用料金表

名 称			使用料(単位円)					全日 (9時～22時まで)
			午前 (9時～12時まで)	午後 (13時～17時まで)	夜間 (17時30分～22時まで)	午前～午後 (9時～17時まで)	午後～夜間 (13時～22時まで)	
交 流 ホール	入場料なし及び 1,000円以下	平 日	20,000	30,000	44,000	50,000	74,000	85,000
		土日休日	24,000	35,000	53,000	59,000	88,000	102,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平 日	26,000	39,000	59,000	65,000	98,000	113,000
		土日休日	32,000	47,000	71,000	79,000	118,000	137,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平 日	33,000	49,000	74,000	82,000	123,000	142,000
		土日休日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
	入場料 5,001円以上	平 日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
		土日休日	49,000	74,000	111,000	123,000	185,000	213,000
ビデオプロジェクターセット		1台	1,580	2,110	2,370	3,690	4,480	6,060
演台(花台付)	W1200mm	1台	890	1,180	1,330	2,070	2,510	3,400
司会者台	W90mm	1台	640	860	960	1,500	1,820	2,460

1. 商業宣伝、営業等を目的として使用する場合は施設利用料は、交流ホールについては、「入場料3,001円～5,000円以下」の区分を適用致します。

2. 練習、準備または撤去のために使用する場合は施設利用料は、交流ホールについては、「入場料なし」の区分の額に100分の50を乗じた額とします。

おしらせ

グランシップは、施設の定期点検のため、下記の期間全館休館となります。

施設使用にかかわる予約受付等の事務処理も休館中には行いませんので、皆様のご理解とご協力をお願いします。(図書館コーナー、情報ラウンジ、チケットセンター、カフェ、レストランもお休みです。)

平成21年10月 6日(火)～ 9日(金)
11月24日(火)～ 26日(木)
12月 7日(月)～ 10日(木)
平成22年 1月12日(火)～ 14日(木)
2月 8日(月)～ 10日(水)

ご利用についてのご案内

【申込受付】

午前9時～午後8時 ※開館時間/午前9時～午後10時

【申込方法】

電話、または当財団窓口にて。※受付は先着順となります。尚、予約受付を開始する月のお申し込みについては、事前に「抽選申し込み」を承っております。(詳細は、利用サービス課までお問い合わせ下さい。)

お申し込み・お問い合わせ

TEL 054(203)5713 FAX 054(203)6710

財団法人 静岡県文化財団 利用サービス課 〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 メールアドレスyoyaku@granship.or.jp

施設の空き状況は、ホームページでも検索OK! <http://www.granship.or.jp>

【申込受付時期&連続使用可能日数】

施設区分	受付開始日	連続使用可能日数
国際会議や全国規模のコンベンション	随時	
大ホール、中ホール	利用開始日 2年前の同月初日	14日
会議ホール、交流ホール、映像ホール	利用開始日 1年前の同月初日	7日
展示ギャラリー	利用開始日 1年前の同月初日	14日
会議室、リハーサル室、練習室、グランシップ広場	利用開始日 半年前の同月初日	7日



グランシップは全館禁煙となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

グランシップの運営にボランティアの立場で参加する「グランシップサポーター」が、それぞれの心意気や感想、体験談をレポートします。

SUPPORTER's VIEW

サポーターとしての喜び

第10期サポーター 平常業務担当 宮城島 公子

今年は開館10周年の年。数あるイベントの一つに、村上征生氏の作品展があった。20回に渡り「G」の表紙を飾った村上氏にはファンが多く、「毎日眺めているんですよ。今日は原画が見たくて来ました。」と、「G」を大事そうにバッグから取り出したご婦人。サポーターとしてとても幸せに思った。

主婦業だけでは社会に取り残されてしまうと、サポーターに応募したのが3年前。今では私のライフワークとなっている。5月開催の「こどものくに」では、ダンボールと格闘しながら看板作りを手伝った。思いのほか時間がかかったが、でき上がったときは満足感で一杯。また、昨年12月には「しずおかの文化講演会」関連企画として、サポーターによる「人形展示・ワークショッブ」を開催。日頃使わない右脳をフル回転させ、ポスター作りにも挑戦。サポーターでなければできない経験だ。これらの機会に感謝しつつ、「自分が楽しくなければ、人を楽しませることはできない」をモットーに、還暦目前の今なお「これからだ！」と前向きに歩んでいこうと思う。ただ一つだけ困ったことがある。それは、私は大変な方向音痴なのだ。「中学生のための音楽会」の際、館内案内の先頭に立ったのだが、「みんなあつちに行つたよ。」と後ろを指差す中学生に「あつ！しまつた、逆だ！」



Report 046

READER'S VIEW

●静岡新聞の「グランシップ

お知らせコーナーで「田沼街道と藤相鉄道」の催しがあることを知り応募。6・20行つて来ました。藤枝は母の古里。子どもの頃一度だけ軽便鉄道に乗りました。乗車口が手動とは知らず、大あわてで土手に飛び降りました。そんなことを思い出しながらの楽しい会でした。

（静岡市・テックさん）

●先日グランシップの探検ツアーに参加しました。大ホールでの300人のオーケストラハーサル風景、とてもおもしろかったです。普段は立ち入り禁止の舞台の真上：子どもたちの心にも残ったようです。

（静岡市・森田彩有里さん）

●「ハート展」や「相田みつを展」などメッセー性的の高い展覧会が好きです。（中略）リラックスしつつ、ちょっと勉強気分ところが中年おばさんに刺激をあたえてくれます。

（静岡市はむさん）

●（G.42号の）グランシップサポーター大集合を見て、このようなボランティアの方々に支えられてグランシップは運営されているのだと皆さんの活動に感謝しております。

（富士市・相原邦夫さん）

●「G」は毎号静岡県県になじみの深いアーティストの方々が掲載されていて、興味深く拝読しています。グランシップはJRでも便利ですが、車で行つても駐車場があるので助かります。

（浜松市和田順子さん）

★「グランシップおよび本誌「G」に関する」意見、感想、お問い合わせなど、皆さまからのお便りをお待ちしています。なお、お寄せいただいたお便りは、本コーナーに転載させていただくこともあります。転載不可の方は、その旨明記の上、お送りください。

Editor's room.....

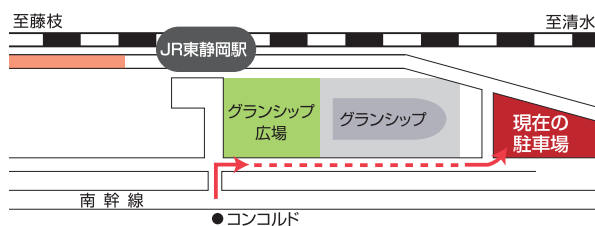
グランシップ10周年記念「サマーフェスティバル」も無事に終了しました。「記念展示」では建設当時のグランシップの珍しい写真や模型、そして開館式典の様子や思い出に残る催しなど10年間の軌跡と共に、本誌22～41号の表紙を飾って下さった村上征生氏の心温まる作品の原画をお楽しみいただきました。広場を中心に館内を飾った「105人の時間展」、大ホールでの「グランシップ音楽の広場」と「おとみち2009」、そして中ホールでの「ビッグバンドフェスティバル」県内のアマチュアの方々とプロのアーティスト協力の催物にお蔭で多くの方々が賑わうグランシップとなりました。大ホールの5階席まで満席になったのは開館以来とか、300人のオーケストラが奏でる「威風堂々」でヒップホップダンスを踊った子どもや若者たちの笑顔、会場のお客さま全てと歌った「不尽の山を望る歌」、夜空にあがる花火を背景に楽しんだ「アート」の数々、開放の大ホールで遊ぶ子どもたちの元気な声と学生たちが弾くピアノの音色…「サマーフェスティバル」に参加して下さった関係者の皆さまに心から感謝申し上げると共に、私どもにとってスタッフ全員が心合わせて取り組む大切さを学んだ夏となりました。

グランシップ館長 田村 孝子

グランシップにお越しの際は、
混雑緩和のため、
公共交通機関をご利用ください。



●**ご注意** 〇〇は、橋梁工事のため、平成24年3月下旬まで通行止めとなります。（車両、歩行者共）



●ACCESS / 東海道新幹線（ひかり）で東京から1時間、大阪から2時間。JR静岡駅下車。東海道本線でJR東静岡駅まで3分。東静岡駅南口に隣接。